

長野県立美術館グランドオープン記念展

森と水と生きる

2021.8/28[土] - 11/3[水・祝]

コレクション展示室オープン

長野県立美術館 名品選 (仮)

- I期 2021.8/28[土] - 10/26[火]
- II期 2021.10/28[木] - 2022.1/11[火]
- III期 2022.1/13[木] - 3/15[火]

■ 利用案内

開館時間 美術館 開館9:00 閉館17:00(展示室入場は16:30まで)
屋上広場 原則として、夜間及び休館日は閉鎖します

休館日 毎週水曜日
(但し、5/5、11/3、2022.2/23は祝日のため開館し、
翌日の5/6、11/4、2022.2/24は休館します)
年末年始(12/28-2022.1/3)

入館料 一般 700(600)円
大学生及び75歳以上 500(400)円
※本館コレクション展を開催していない日は
一般 500(400)円、大学生及び75歳以上 300(200)円
高校生以下 無料
※ 割引の併用はできません
※ ()内は20名以上の団体割引及び各種割引
※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と
付き添いの方1名は無料
※ 大学生及び75歳以上の方は身分が確認できるものをご持参ください

■ アクセス

長野県立美術館には一般来館者のための駐車場はございません。
併設の東山魁夷館北側に隣接している駐車場は、大型バス、障がいのある方など信州
パーキングパーミット制度にて指定された方の専用駐車場です。

美術館近辺の駐車場は混雑が予想されます。公共交通機関のご利用をお願いします。

◎公共交通機関

JR長野駅善光寺口バス乗り場①から、
アルピコ交通バス(11系統善光寺経
由宇木行/16系統善光寺・若槻団地
經由若槻東条行/17系統善光寺・西
条經由若槻東条行)で「善光寺北」下
車(所要時間約15分)。バス進行方向
徒歩5分。

JR長野駅善光寺口バス乗り場①及び
⑦の善光寺経由のバス、もしくは善光
寺行き「びんずる号」で「善光寺大門」
下車(所要時間約13分)、表参道を善
光寺本堂方向に歩き、本堂を右方向、
城山公園へ徒歩10分。



新美術館イメージ©ブランツアソシエイツ

(旧長野県信濃美術館)
長野県立美術館 新築オープン
2021.4.10 SAT

NEW OPEN

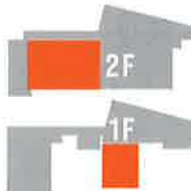


長野県立美術館

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(善光寺東隣 城山公園内)
TEL.026-232-0052 FAX.026-232-0050
https://nagano.art.museum/



※新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により、会期等に変更が生じる場合があります。
最新情報は美術館ホームページをご覧ください。



長野県立美術館完成記念

未来につなぐ〜新美術館でよみがえる世界の至宝 東京藝術大学 スーパークローン文化財展

2021.4/10[土]—6/6[日] 会場|展示室1・2・3 観覧料|一般 1,400円、大学生 1,200円、高校生以下無料



法隆寺釈迦三尊像(復元CG)

新しい美術館の完成にあたり、美術館という施設の本質に関わる、公開と保存・修復・復元をめぐるさまざまな問題について考える展覧会です。東京藝術大学は最新のデジタル技術を駆使し、文化財を「スーパークローン」として、周囲の環境までも含めて精密に復元する技術を確認しました。今回の展覧会では、パーミヤンやキジル、敦煌などの石窟寺院から法隆寺金堂の釈迦三尊像に至るまで、仏教東漸の跡を記す「スーパークローン文化財」を展示し、周囲の環境までも含めて展示することで、近年の地球温暖化による気候の急激な変化や地域紛争の激化により、存亡の危険にさらされている文化財の保護と公開の問題について、新たな視点から考える機会とします。

主催|長野県、長野県立美術館、信濃毎日新聞社、(公財)信毎文化事業財団
共催|長野県教育委員会、東京藝術大学、SBC信越放送
特別協力|東京藝術大学COI拠点、株式会社IKI



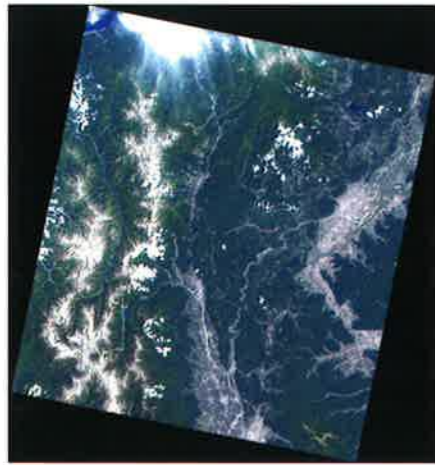
めぐりあいJAXA —ながのとながめ

2021.6/19[土]—8/15[日]

会場|展示室1 観覧料|無料

主催|長野県、長野県立美術館 共同キュレーション|澤隆志
協力|国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)

新美術館では、映像作品や写真といったジャンルについても積極的に紹介していきます。新しい取り組みとなる本展では、近年、著しい技術進歩を遂げ、また多くの映像作家、写真家のインスピレーションの源となっている宇宙観測技術をテーマに、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の人工衛星「だいち」が撮影した長野県の高精細画像を元にした映像作品を関連資料とともに展示します。宇宙から長野県を俯瞰する映像体験をお楽しみください。



澤隆志「めぐりあいJAXA」



新美術館イメージ©プランツアンシエイツ

長野県立美術館メイキングドキュメント つながる美術館 宮崎浩とランドスケープ・ミュージアム

2021.6/19[土]—8/15[日]

会場|展示室2 観覧料|無料

主催|長野県、長野県立美術館 特別協力|(株)プランツアンシエイツ

公立美術館の黎明期にあたる1966年に開館し、2017年に半世紀余りの歴史を閉じた長野県信濃美術館は、2021年4月、善光寺をはじめとする豊かな周囲の環境と調和する「ランドスケープ・ミュージアム」として新たに生まれかわります。設計を担当した建築家・宮崎浩は、周囲の環境と「つながる美術館」をキーワードに設計を進め、県民をはじめ多くの関係者との対話を通じて、開かれた美術館の完成を目指しました。本展では新たに生まれかわった長野県立美術館建設の歩み、その全貌を紹介します。



Mame Kurogouchi(仮)

2021.6/19[土]—8/15[日]

会場|展示室3



黒河内真衣子

新美術館は、スタッフユニフォームを、ファッションブランド「Mame Kurogouchi(マメ クロゴウチ)」を手がける黒河内真衣子に依頼しました。2018年よりパリでコレクションを発表している長野県出身のデザイナーです。長野の美しい自然を身近に感じながら育ったことが、今の自分のデザイナーとしての美的感覚に大きく影響を与えている、という黒河内。そのデザインの魅力をご紹介します。展覧会を開催します。

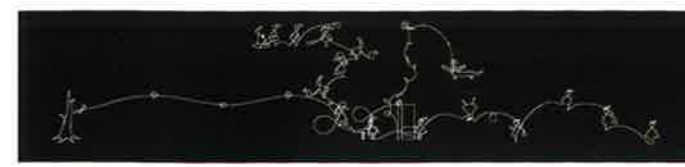
観覧料|一般 500円、高校生以下無料
主催|長野県、長野県立美術館
共催|(株)黒河内デザイン事務所



新美術館みんなのアートプロジェクト

Something there is that doesn't love a wall —榎原澄人×ユーフラテス

2021.4/10[土]—8/15[日] 会場|交流スペース 観覧料|無料 主催|長野県、長野県立美術館



ユーフラテス《1本の線》(仮題)



榎原澄人
《イヅナアナクロニクル》(仮題)

新美術館では、長野県と映像メディアの深い関係を踏まえ、新築オープンを契機に、映像や写真などの紹介にも取り組んでいきます。新たな試みの足がかりとして、約2年間にわたって新設される「交流スペース」のための映像作品の制作を作家に依頼する「新美術館みんなのアートプロジェクト」を行ってきました。プロジェクトの成果発表の場となる本展では、榎原澄人《イヅナアナクロニクル》(仮題)とユーフラテス《1本の線》(同)の上映展示を行います。来館者に開かれた美術館の象徴となる作品をお楽しみください。

新美術館
みんなのアート
プロジェクトとは

ふるさと納税の仕組みを活用し、新美術館本館の無料ゾーンに展示する作品を新たに制作するプロジェクトです。あらゆる感覚を使って美術を楽しむ場所、美術に関心のない方にもアートが身近に感じられる場所を、みなさんと一緒に育てていきます。

新美術館本館2階に新設される「アートラボ」。視覚以外の感覚も使った鑑賞が可能な作品を展示する「ラボ(実験室)」として、誰でも立ち寄り、アートに触れて、新たな発見が生まれる場となることを目指しています。「新美術館みんなのアートプロジェクト」では、金箱淳一、中ハシクシゲ、西村陽平、光島貴之という4名の作家に「アートラボ」のためのオリジナル作品の制作を依頼しました。本展では、その全作品をご紹介します。触れて感じるアート。いつもとは違う作品鑑賞をお楽しみください。



新美術館みんなのアートプロジェクト

ふれてみて 2021.4/10[土]—8/15[日]

会場|コレクション展示室・アートラボ 観覧料|無料

主催|長野県、長野県立美術館



金箱淳一
◎守屋友樹

中ハシクシゲ
◎守屋友樹

西村陽平
◎守屋友樹

光島貴之
◎守屋友樹



美術館のある街・記憶・風景 日常記憶地図で見る50年

2021.4/10[土]—6/27[日]

会場|オープンギャラリー 観覧料|無料

主催|長野県、長野県立美術館

新美術館では、「交流スペース」の西側に「オープンギャラリー」という小さなスペースを設けました。今回は、当館の建つ善光寺周辺の歴史ある街や、この地域に暮らす人々と当館のこれまでの関係性を見つめなおすため、人々の日常生活や個人的な場所にまつわる記憶についてインタビューし、その土地の特性や歴史を見出すことを試みるメソッド「日常記憶地図」を各地で展開するサトウアヤコを迎えました。

人の記憶を通して街を見ることによって、今まで気づけなかった街のさまざまな一面を発見し、あなたなりのこの街の姿を心の中に浮かび上がらせることができるでしょう。



サトウアヤコ

オープンギャラリー 夏季展示

2021.7/1[木]—9/14[火]

会場|オープンギャラリー 観覧料|無料

主催|長野県、長野県立美術館

新美術館本館の建築コンセプトである「ランドスケープ・ミュージアム」を象徴する「霧の彫刻」を水辺テラスに制作した中谷芙二子、世界各地でその土地の石を現地の人々と一緒に磨くプロジェクトを展開する富長敦也、ライブペインティングや作品展示を行う話題のアーティスト・小松美羽。開館イベントにおけるライブパフォーマンスの映像や作品、ワークショップの記録などを展示し、各作家の業績を紹介します。



富長敦也
7/1[木]—7/27[火]



小松美羽
7/29[木]—8/24[火]



中谷芙二子
8/27[金]—9/14[火]
photo by Laura Miglone



東山魁夷《緑響く》1982年

東山魁夷館 コレクション展

観覧料

I期、II期、III期(7/29—8/27)

一般 500円、大学生・75歳以上 300円
(東山魁夷館のみご覧いただけます)

III期(8/28—10/5)

一般 700円、大学生・75歳以上 500円
(本館コレクション展もご覧いただけます)

I期 2021.4/15[木]—6/1[火]

II期 2021.6/3[木]—7/27[火]

III期 2021.7/29[木]—10/5[火]

主催|長野県、長野県立美術館

1990年に開館した東山魁夷館は、画家本人から寄贈された作品に加え、後に収集、寄贈された作品を含めると所蔵点数は970点あまり。数多くのスケッチや作品が完成するまでの下図、習作などを多数所蔵し、作品の完成までをたどることができる数少ない美術館です。2021年度は、「緑響く」や「白馬の森」、「夕静寂」など本制作品36点を6期に分け、奈良や京都、ヨーロッパの古都を描いた連作、白い馬の見える風景や北欧風景のシリーズ、唐招提寺御影堂障壁画の準備作、そして、初期時代の貴重な作品を加えて、静謐な東山芸術の全容をご紹介します。